



博多湾岸《金印ロード》 資源活用プロジェクト

事業の趣旨 志賀島、能古島、シーサイドももち地区などの地域コミュニティとともに、さまざまな人の力を借りながら、博多湾岸の魅力を発掘・発見・発信する

事業の概要 1) 文化庁「文化芸術振興費補助金」（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）の交付を受けて実施
2) 推進体制：博多湾岸《金印ロード》プロジェクト実行委員会

博多湾岸の歴史・文化資源情報の多言語発信事業

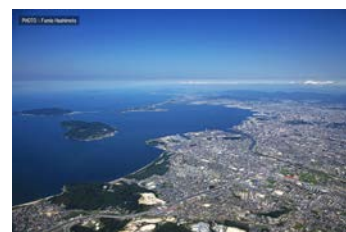
多言語化を中心とし、児童、学生、日本語を母語としない人、障がいのある人、お年寄りなど誰もが福岡の歴史や文化の魅力にふれることができるガイドブック等をつくります。



ユニバーサル都市・福岡

しまの活力を創る博多湾岸《金印ロード》事業

博多湾の4つの島（志賀島、能古島、玄界島、小呂島）を舞台にして、博物館のこれまでの調査、研究、展示の蓄積を地域の力にするために、さまざまなイベント、シンポジウム、交流事業を行います。



子どもたちとつくる博多湾岸《金印ロード》魅力 発信メディア事業

「蒙古襲来」をテーマにして、博物館のご近所で、子どもたちと、地域にある史跡やスポットを発掘・発見し、楽しいマップをつくって魅力を発信します。



博多湾岸の近代化に関わる多様な文化遺産の 保存活用検討事業

博多湾岸の近現代の遺産を活用するために、博物館に展示されている最古の国産自動車「アロー号」を題材にし、あたらしい文化財保存、活用のあり方を考えます。

